

名古屋大学医学部附属病院



病院長名	小寺 泰弘
所在地	〒466-8560 愛知県名古屋市長和区鶴舞町 65 番地
交通案内	JR 中央線「鶴舞駅（名大病院口）」下車 徒歩 3 分 名古屋市営地下鉄「鶴舞駅」下車 徒歩 8 分

□ 病院の特徴

名古屋大学では従来より、卒前から卒後に至る一貫した臨床医学教育を実現するために、『総合医学教育センター』を設置するとともに、2008 年度からは、初期研修後の専門医育成も支援するために、『卒後臨床研修・キャリア形成支援センター』として機能充実を図り、研修サポート体制の拡充を行った。これにより、名大研修の特徴である関連病院と密接に連携した質の高い臨床教育をより円滑に推進できるようになった。すなわち、2 年間の初期研修のみならず、後期・専門研修のキャリアパス整備とキャリア形成の積極的支援など、後期研修や専門研修においても、病院として責任を持った体制が確立したと言える。各種教育ツールを一括管理してシミュレーションによるトレーニングを進めるとともに、OJT (On the Job Training) を重視して臨床手技の習得が速やかに行われるように力を注いでいる。

□ 研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

名古屋大学医学部附属病院放射線科専門研修プログラム

【研修目標】

放射線科医としての専門知識や技能、医師としての倫理性、社会性、学問的姿勢を身につける。

【研修期間】

3 年

【研修スケジュール】

研修 1 年目は指導医によるマンツーマンを基本とする指導体制のもと、画像診断、放射線治療、IVR、核医学の放射線科診療に必要な基礎的知識、病態の習得を目指します。他診療科との連携、コミュニケーション技術についても、コンサルテーションや合同カンファレンスを通じて学びます。2、3 年目ではさらに IVR や放射線治療などについてより専門的な知識、技能を習得します。サブスペシャリティ領域（診断専門医、治療専門医）の方向性の決定は、1 年目～3 年目のどの時期に行っても柔軟に対応できます。大学病院のみの研修では経験症例に偏りが生じるため、連携施設（市中病院）での研修も重視しており、半年間～2 年間は連携施設で研修を行います。産休・育休による研修プログラム休止にも応じています。



▲ 読影室



▲ 医局会風景

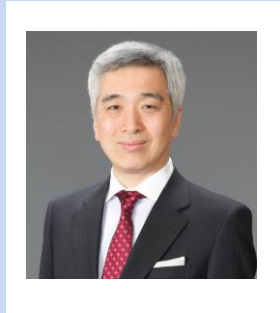
□ 主な連携施設

名古屋医療センター、日赤愛知医療センター名古屋第一病院、中部ろうさい病院、名古屋掖済会病院、名古屋記念病院、愛知県がんセンター、トヨタ記念病院、公立陶生病院、豊橋市民病院、碧南市民病院、半田市立半田病院、西尾市民病院、安城更生病院、豊田厚生病院、市立四日市病院、県立多治見病院、国立長寿医療研究センター、名古屋城北放射線科クリニック、国立がん研究センター東病院

□ メッセージ

指導医（教授 長縄慎二）

放射線科の仕事は臨床医学の中でどんどん重要性が増し放射線科医の需要も激増していますが、名古屋地区のみならず全国的に人手不足が続いています。名大放射線科での研修メリットをアピールするとすれば次のような点だと思います。放射線医学においては最新の機器を使用することが臨床においても研究においてもとても重要なのですが、名大病院はその点においても国内トップクラスです。現在、名大放射線科は各分野の優秀な教員がバランス良くそろっており、最高レベルの臨床研修そして臨床研究が、皆さんに提供できる環境となっています。良質な代務先も豊富です。業務も医局員が助け合いながら、QOL の高い生活が確保できます。また、放射線科はもともと女性医師へ適した部分が多い診療科ですが、名大放射線科は関連施設に遠隔読影クリニックも有しており産休中、育児休暇中の業務もいろんな形が選択できるようになっています。さらに名大放射線科の多数の良質な関連病院、大学、研究施設の中から、将来のキャリアパスをある程度希望通りに選べるのは良質なポストがきわめて潤沢な故にできるメリットと思います。以上のような環境は国内の放射線科の中でも若手医師に、とても有利な環境と思います。



□ 募集要項

・採用予定人数	8 人
・給与／月額	月額約 20 万円に加え、該当する場合に手当（通勤手当、超過勤務手当、夜勤手当、特殊勤務手当（夜間診療業務手当等））を支給
・当直回数／月	約 1 回／月
・当直料／回	20,000 円／回
・その他	平日日勤帯の外勤等（週 1 日まで）可
・応募連絡先	担当者 駒田 智大 電話番号 052-744-2327 Eメール radchief@med.nagoya-u.ac.jp